



▲移転する前の姿。現在よりも300m京都寄りにありました（昭和40年代前半）。



▲現在の場所に移ったのは昭和46年。今年で40年を迎えます。一日の乗降客数は約6万人です。



▲京阪電鉄初の自動改札機が設置されました（昭和47年頃）。

## 沿線一小さな駅から、にぎわいの拠点へ

# 樟葉駅

通勤客やくずはモールへ買い物に向かう人のにぎわう樟葉駅は、かつて京阪本線で最も乗降客の少ない小さな駅でした。

明治43年、京阪電車の開通と同時に開設されましたが、周辺は湿地や池、田んぼばかりで、ホームで出会う人はほとんどが顔見知りというくらい利用者は限られていました。「当時は家から駅が見えていたんですよ」と話すのは、南楠葉から電車で第一中学校に通っていた森本萬治郎さん（75歳）。「乗り遅れそうなききは大急ぎで走りながら叫んで、顔なじみの駅員さんに電車を止めてもらったこともありました」。町楠葉の中村壽雄さん（71歳）は「並んで走る旧国道1号から車がよく落ちてね。スイカを積んだトラックがひっくり返ったときは割れたスイカをもらいに行きましたよ」と幼い頃の思い出を語ります。楠葉地域は低地帯で今とは違い水はけも悪く、台風や大雨の時は一帯が水に漬かることも。「雨は怖かったですけど、田んぼに上がったコイやフナを獲りに行くのが楽しかったですね」。昭和30年代までは一日の利用者数が1500人に満たないのどかな雰囲気でしたが、広さ136万㎡の住宅地「くずはロースタウン」の開発により、昭和46年に新しいまちの玄関口として現在の場所に移設されました。京阪電鉄初の自動改札機も導入され、翌年には駅前に広域型ショッピングセンター「くずはモール街」もオープン。近隣から買い物に訪れる家族連れも増え、昭和50年代には乗降客数が40倍以上に膨れ上がりました。現在は特急も停車する沿線の主要駅として、多くの人が行き交っています。

（平成23年10月号）